

「学びの变革」指導事例

<基本情報>

- ◇教育課程 作業学習（紙漉き）
- ◇学年 中学部Bグループ 第1学年1名，第2学年2名，第3学年3名（計6名）
- ◇単元名 「紙製品の製作」
- ◇目指す姿 『気付き，考える姿』
- ◇単元の目標
 - 働くことの喜びを知り，進んで仕事に参加することができる。
 - 物を作ることの喜びを味わい，仕事への自信を持つことができる。
 - 分担された仕事を最後までやり遂げることができる。
 - 他の人と協力して作業する態度を身に付ける。
- ◇本時の目標
 - ・ 自分の分担された仕事を最後までやり遂げることができる。
 - ・ 落ち着いて作業することができる。
- ◇生徒の実態 知的障害と自閉症若しくはその傾向を有する単一障害学級に在籍している生徒でグループを編成。決まったパターンの学習が得意であり，活動の見通しが立てば集中して学習に取り組むことができる。6名の内，1年生1名と2年生の1名以外は昨年度紙漉きを経験している。指導者が主に担当する生徒Bは，作業内容を説明すると見通しを持って作業に取り組めるが，集中できなくなると持ち場を離れてしまうことがある。

<学習過程(抜粋)>

学習活動	指導上の留意点 □課題 ○支援 ☆評価	
	B	全体
3 作業 ・決められた時間まで作業する。	<p>自分の選んだ仕事（トレイづくり12枚）を手順どおりに行うことができる。</p> <p>○生徒の自主的な動きを待つように言葉掛けを少なくする。退室した場合は作業に戻るような言葉掛けをし，自主的に戻るのを待つ。(T1) ☆トレイ加工の仕事を，手順通り，12枚することができたか。</p> <p>タイマーの色がなくなるまで，落ち着いて作業することができる。</p> <p>○終わりの時間がわかるように色が変わるタイマーを使用する。(T1) ☆タイマーの色がなくなるまで落ち着いて作業することができたか。</p>	<p>○肯定的な言葉掛けで作業意欲を高める。</p> <p>○言葉や態度が適切でない場合は，気つくような言葉掛けをしたり見本を示したりして修正する。）</p>

「最後までやり切る」，「落ち着いての作業」という目標を達成させるため，トレイ用の紙盤を自分が作る枚数分取らせる，トレイ版(成型用)が選んだ枚数分の使用で丁度作業台からなくなるように環境整備する，成型したトレイを置く位置の印の付いた乾燥板を準備する等の支援を行うことで，生徒Bは作業の終了の見通しを持つことができ，持ち場を離れず手順どおり自分の担当工程を行うことができていました。自分の行うべき作業量が減っていくことを視覚的に確認できることで，作業終了への見通しが持て，「落ち着いて」「やり切る」ことができた学習活動でした。

本授業では生徒Bに作業過程に2つの課題(目標)を設定している。作業量が視覚的に分かり見通しを持たせる支援であった前半と変えて後半の作業の支援は終了時間を視覚化する支援を行っていたが，集中が途切れたり持ち場を離れようとしたりする様子が見られた。本生徒にとっては，作業時間を示すことよりも作業量を示す方が望ましい支援と言える。

生徒Bは作業内容を理解しているが活動への促しが必要な生徒であり，今後一連の作業工程を自ら判断して最後まで行うことができる力を養うための支援内容を検討していく。